

伊賀市 「事務事業評価」 結果総括シート〔2次評価シート〕

(4) 評価実施年度	平成 20 年度
------------	----------

(1) 政策	コード 14	名称 (1) 明るい未来の希望を育むまちづくり
--------	-----------	----------------------------

(5) 評価責任者職名	教育部長
(6) 評価責任者氏名	松永 彰生

(2) 基本施策	コード 31	名称 ① 個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	(3) 生活課題	31	子どもが将来の夢をはっきり持っている
----------	-----------	--------------------------------	----------	----	--------------------

(7) 評価者	
---------	--

(9) 継続・新規 (20.21.22.23)	コード	(10) 事務事業名	コード	(11) 担当部課名	(12) 事業費(千円)			(13) H21投入人員		主な成果(新規事業の場合は目標) 指標の数値	1次評価結果						
					H19 決算額	H20 予算 額・補 正要求 額	H21 要求 見込額	人	人件費		(14) 指標名	個別評価				(23) 総合 評価	(24) 方向性
												(15) 19年度 (実績)	(16) 21年度 (目標)	(17) 指標の 単位	(18) 評価 類型		

2次評価									
(25) 1次評 価修 正有・無	(26) 修正点	(27) 修正の理由	(28) 改革改善 案修正の 有・無	(29) 修正点	(30) 優先 度区 分	(31) 方向 性	(32) 方向性の評価につ いて	(33) その他の改革 改善点について	

継続	461	私立幼稚園等振興助成費	450100	教育部教育総務課	1,770	1,530	1,530	0.005	36	幼稚園決算損失への充当園数	2	2	園	I	4	4	3	3	A	現状維持
継続	463	奨学金等支給経費	450100	教育部教育総務課	11,787	14,928	17,020	0.3	2,160	基金奨学金(ササユリ奨学金)支給者採用率	100	100	%	I	4	4	4	4	A	現状維持
継続	474	城東中学校建設事業	450100	教育部教育総務課	303,499	1,942,660	1,000	0.3	2,160	工程表の進捗度	75	-	%	II	4	4	3	4	A	現状維持
継続	480	教育振興事業	450300	教育部学校教育課	38,117	24,539	24,615	0.2	1,440	事案発生件数及び交通事故発生件数	58	35	件	I	3	4	4	3	A	現状維持
継続	481	不登校児童生徒支援事業	450300	教育部 学校教育課	7,721	7,198	7,198	0.3	2,160	不登校児童生徒の好ましい状況変化の割合	48	60	%	I	3	4	3	4	A	現状維持
継続	482	英語指導助手(ALT)活用事業	450300	教育部 学校教育課	29,819	27,562	29,822	0.3	2,160	中学校1クラスの英語授業に入るALTの時間数	30	35	時間	I	4	3	3	3	A	拡大
継続	483	キャリア教育推進事業	450300	学校教育課	1,200	2,676	2,976	0.4	2,880	職場体験実施後のアンケート調査における生徒の満足度	90	100	%	I	3	4	3	3	A	現状維持
継続	484	外国人児童生徒支援事業	450300	教育部 学校教育課	1,200	7,029	7,604	0.2	1,440	高校進学ガイダンスの参加者数	185	210	人	I	4	4	3	3	A	現状維持
継続	486	特色ある学校教育推進事業	450300	教育部学校教育課	18,468	7,655	5,885	0.1	1,008	学校の取組に対して、満足である評価を得た学校数	37	36	校	I	3	4	4	3	A	現状維持
継続	487	人権同和教育推進事業	450300	教育部 学校教育課	5,123	8,000	8,000	0.5	3,600	「集い」に参加して「大変よかった」「よかった」児童生徒数	80	95	%	I	4	4	3	4	A	現状維持

無	—	—	無	—	4G	c	厳しい経営状況につき有効性が認められる。	
無	—	—	無	—	2G	b	部落差別がある限り事業を継続	支給審査基準を見直し、適正支給に努める。
無	—	—	無	—	2G	b	21年4月解放に向け鋭意事業推進を図る。	
無	—	—	無	—	1G	a	児童・生徒の安心・安全を確保する。	住民自治協との連携
無	—	—	無	—	2G	b	不登校児童・生徒の支援基幹として要継続	指導補助員の確保
無	—	—	無	—	1G	a	特に小学校導入の支援要	ALT増員検討
無	—	—	無	—	3G	c	自分の生き方、進路を考える上で有効	系統的キャリア教育推進
無	—	—	無	—	2G	b	外国人児童・生徒の増加に伴い支援継続要	事業費の増額の要
無	—	—	無	—	4G	c	学校独自の特色ある事業の継続	
無	—	—	無	—	2G	b	より一層の人権同和教育の強化が必要	

伊賀市 「事務事業評価」 結果総括シート〔2次評価シート〕

(4)評価実施年度	平成 20 年度
-----------	----------

(1)政策	コード 14	名称 (1)明るい未来の希望を育むまちづくり
-------	-----------	---------------------------

(5)評価責任者職名	教育部長
(6)評価責任者氏名	松永 彰生

(2)基本施策	コード 31	名称 ①個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	(3)生活課題	31	子どもが将来の夢をはっきり持っている
---------	-----------	-------------------------------	---------	----	--------------------

(7)評価者	
--------	--

(9) 継続・新規 (20.21.22.23)	コード	(10)事務事業名	コード	(11) 担当部課名	(12)事業費(千円)			(13)H21投入人員		主な成果(新規事業の場合は目標)		1次評価結果								
					H19 決算額	H20 予算額・補正要求額	H21 要求見込額	人	人件費	(14)指標名	指標の数値		(17) 指標の単位	(18) 評価類型	個別評価				(24) 方向性	
											(15) 19年度(実績)	(16) 21年度(目標)			(19) 必要性	(20) 有効性	(21) 達成度	(22) 効率性		(23) 総合評価
継続	490	学力向上推進事業	450300	教育部学校教育課	3,189	4,879	4,731	0.2	1,152	学力検査における市内小学校の平均点	101	103	%	I	4	3	4	4	A	現状維持
継続	491	特別支援教育充実事業	450300	教育部 学校教育課	53,353	56,760	59,514	0.5	3,600	巡回・教育相談件数	188	220	件	I	3	4	4	4	A	拡大
継続	499	教職員研究研修事業	450300	教育部 学校教育課	18,172	6,407	9,200	0.2	1,440	県や全国規模の研究會での発表・提案校数	6	10	校	I	3	4	3	4	A	現状維持
継続	515	中学校クラブ遠征参加経費	450100	教育部教育総務課	5,506	5,675	5,675	0.1	720	体育大会出場補助額	1,088	1,100	円	I	4	3	4	4	A	現状維持
継続	2050	友生小学校教室増築事業	450100	教育部教育総務課	23,820	62,012	269,550	0.5	3,600	事業の進捗率	7	100	%	II	4	4	4	4	A	現状維持
21新規	2113	(仮称)上野北部小学校建設事業	450100	教育部教育総務課	0	0	15,400	0.5	3,600	工程表の進捗度	-	10	%	II	4	4		4	A	
21新規	2114	(仮称)上野東部小学校建設事業	450100	教育部教育総務課	0	0	22,000	0.5	3,600	工程表の進捗度	-	20	%	II	4	4		4	A	
23新規	2304	(仮称)上野西部小学校建設事業	450100	教育部教育総務課	0	0	0		0	工程表の進捗度	-	-	%	II	4	4		4	A	
23新規	2305	(仮称)阿山小学校建設事業	450100	教育部教育総務課	0	0	0		0	工程表の進捗度	-	-	%	II	4	4		4	A	
23新規	2306	(仮称)上野南部小学校建設事業	450100	教育部教育総務課	0	0	0		0	工程表の進捗度	-	-	%	II	4	4		4	A	

2次評価										(25) 1次評価修正有・無	(26) 修正点	(27) 修正の理由	(28) 改革改善案修正の有・無	(29) 修正点	(30) 優先度区分	(31) 方向性	(32) 方向性の評価について	(33) その他の改革改善点について
(19) 必要性	(20) 有効性	(21) 達成度	(22) 効率性	(23) 総合評価	(24) 方向性													
										無	—	—	無	—	2G	b	学力向上に向け継続が必要	
										無	—	—	無	—	1G	a	個々のニーズにあった教育の継続	特別支援員の増員検討
										無	—	—	無	—	3G	c	教育職の指導力の向上	
										無	—	—	無	—	4G	c	参加費負担により保護者の負担軽減	
										無	—	—	無	—	1G	b	児童(生徒)急増に対応するため増築は必要	2年度に分割し建設することで補助金の受入可
										無	—	—	無	—	3G	c	少子化に伴う教育環境整備	市有地活用によりコスト削減
										無	—	—	無	—	2G	c	少子化に伴う教育環境整備	既存中学校校舎の活用
										無	—	—	無	—	3G	c	少子化に伴う教育環境整備	既存中学校校舎の活用
										無	—	—	無	—	4G	c	少子化に伴う教育環境整備	既存の学校用地活用も視野
										無	—	—	無	—	3G	c	少子化に伴う教育環境整備	既存中学校校舎の活用

伊賀市 「事務事業評価」 結果総括シート〔2次評価シート〕

(4)評価実施年度	平成 20 年度
-----------	----------

(1)政策	コード 14	名称 (1)明るい未来の希望を育むまちづくり
-------	-----------	---------------------------

(5)評価責任者職名	教育部長
(6)評価責任者氏名	松永 彰生

(2)基本施策	コード 31	名称 ①個性を伸ばし、夢を追い求められる教育を進める	(3)生活課題	31	子どもが将来の夢をはっきり持っている
---------	------------------	--------------------------------------	---------	----	--------------------

(7)評価者	
--------	--

(9)継続・新規 (20.21.22.23)	コード	(10)事務事業名	コード	(11)担当部課名	(12)事業費(千円)			(13)H21投入人員		主な成果(新規事業の場合は目標) 指標の数値	1次評価結果									
					H19 決算額	H20 予算額・補 正要求額	H21 要求 見込額	人	人件費		(14)指標名	(15) 19年度 (実績)	(16) 21年度 (目標)	(17) 指標の 単位	(18) 評価 類型	個別評価				(24) 方向性
																(19) 必要性	(20) 有効性	(21) 達成度	(22) 効率性	
20新規	2051	統合幼稚園建設事業	450100	教育部教育総務課	0	65,150	392,026	0.5	3,600	事業計画に沿った進捗度	100%		II	4	4		4	A		
20新規	2052	学籍就学システム導入事業	450300	教育部学校教育課	0	4,069	650	1.0	7,200	学籍関連事務事業に投入する人員数	1人	IV	4	4		4	A			
継続	2053	開かれた学校推進事業	450300	教育部 学校教育課	2,000	2,391	2,400	0.4	2,880	学校の外部評価に示された満足度(学校マニファストの達成度)	70	80%	I	3	4	3	4	A	現状維持	
20新規	2054	生徒指導推進事業	450300	教育部 学校教育課	0	8,200	8,200	0.4	2,880	学校へ来るのが楽しいと思う児童生徒の割合	90%		I	4	4		4	A		
継続	2050-1	(仮称)上野南地区中学校建設事業	450100	教育部教育総務課	23,000	192,000	424,150	1.0	7,200	工程表の進捗度	20	60%	II	4	4	3	4	A	現状維持	

(25) 1次評価修正 有・無	(26)修正点	(27)修正の理由	(28) 改革改善 案修正の 有・無	(29) 修正点	(30) 優先 度 区分	(31) 方向 性	(32) 方向性の評価につ いて	(33)その他の改革 改善点について
無	—	—	無	—	1G	c	耐震及び少子化による教育環境の整備	市有地活用によるコスト削減
無	—	—	無	—	4G	c	事務処理の効率化を図る。	システム導入によりコスト及び保管場所の削減
無	—	—	無	—	4G	c	コミュニティスクール推進及び学校評価システム構築	
無	—	—	無	—	3G	c	問題行動の早期発見・対応に努める。	教育相談に関わる事業の統合
無	—	—	無	—	1G	c	少子化に伴う教育環境整備	2中の統合による職員数、ランニングコストの削減